

廣田名誉会長の遺稿に際して贈る言葉

令和7(2025)年7月にご逝去された廣田名誉会長が遺された原稿を拝受し、その労作に対し深い敬意と感謝の意を表したく、ここに言葉を贈らせていただきます。

廣田名誉会長は、当院の前身である大村海軍病院における、原爆投下直後の医療救護活動について、原爆資料館の展示資料や関係書籍を丹念に調査・整理され、当時の実情を後世に伝える貴重な記録として取りまとめてくださいました。原爆により多数の傷病者が同病院に収容され、派遣された医療救護班が過酷な状況下で尽力した様子を、深い敬意を込めて描かれております。

名誉会長は、「原稿(その3)」の最終校正に取り組まれていた矢先、急病により当院へご入院され、そのまま帰らぬ人となりました。入院前日には、私自身、名誉会長とお電話でお話しする機会をいただきました。その際、原稿に対する変わらぬ熱意をもって語られ、お声からはお元気なお姿が目に見えようでした。まさに、使命感に貫かれたご執筆であったと、あらためて胸を打たれる思いです。

これまでにいただいた2つの原稿は、すでに当院のホームページに掲載しており、多くの方々にご覧いただいております。今回の遺稿もまた、名誉会長が当センターの原点である大村海軍病院における被爆医療の歴史を後世に伝える責任を担われ、力を尽くして執筆された、かけがえのない記録です。

名誉会長のご尽力に深く感謝申し上げるとともに、そのご遺志をしっかりと引き継いでまいります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

令和7年8月9日

国立病院機構 長崎医療センター 院長
あかしや医師の会 会長

高山 隼人